昭和大学歯学部だより　2013．12号

通算121号
2013.12.27 発行

発行責任者：歯学部長　宮崎　隆，編集責任者：広報委員長　井上　富雄
〒142-8555　東京都品川区旗の台1-5-8　TEL: 03-3784-8000
ホームページ：　http://www.showa-u.ac.jp

巻頭言

歯科病院長　槇　宏太郎

早いもので，もう12月も半ばとなりました．　病院長を拝命して8ヶ月になります．しかし，まだ充分に職務を全うしているとは言えない状況です．その分，病院の事務方や周囲には多大な迷惑をかけ続けております．事務系の忙しさを目の当たりにし，この方々が歯科病院を維持してくれているという実感を強くしております．

歯科病院には，学生や研修医の臨床教育という大きな存在意義がありますが，そのためには，地域からの需要に対する質の高い医療の供給は欠かせません．症例数が少なくては充分な臨床教育は難しくなってしまうからです．そして，質の高い医療を目指し，維持するためには，ある程度の利潤もまた必要となります．歴史ある建物の内装をより清潔なものに換えるのも，最新の診断装置を導入するにも，資金と実績が必要です．社会では当たり前のことですが，大学在職中にはあまり意識されない先生も多いのではないでしょうか．実は，私もそうでした．この収支改善が，就任後すぐの課題でした．幸い，病院ワークショップによって，多くの職域の方々から叡智と力強さを分けてもらうことが出来，少しくは安堵致しましたが，まだ目標達成まで道の半ばです．

そして，医療の評価，というのも重要な課題と位置づけました．ほんとうに我々の行っている医療が最善のものであるのかどうか．この疑問は，自分自身への問いかけでもあります．大学と言えどもほんとうに最高の治療となっているのかどうか．一般社会への正確な医療情報の発信や，標準治療を逸脱しない医療も，遵守すべき基本的な条件です．しかし，残念ながら，そのような我々の治療自体を第三者的な観点から評価をするシステムは院内に構築されておりません．IRB（治験審査委員会）のような組織ができないものでしょうか．悩んでいる最中です．

さらに，大学の他の関連病院との新たなる関係の構築も喫緊の重要な課題となっております．歯科医療が求められているところで，その価値をどれだけ示すことができるのか．このような機会に恵まれる歯学部も多くはないはずです．発展する好機と捉えなければなりません．　医歯薬保健という，まさに国民医療の全体像を俯瞰できる職場，この昭和大学の仲間同士で，もっと新規開拓できる領域も多いように感じます．

『奮闘は続くが，決して孤軍ではない．』

それが，私のこの一年の感想です．

教授就任のご挨拶

歯科薬理学講座　高見　正道

この度，山田庄司前教授の後任として歯科薬理学講座教授を拝命いたしました．身に余る重責ですが，研究と教育に全力を尽くし，昭和大学歯学部のさらなる発展に資したいと存じます．

私は，平成１０年に東京工業大学大学院博士課程を修了した後，本学口腔生化学講座（須田立雄名誉教授）の助手に採用されました．平成１２年から2年間，米国ロックフェラー大学およびペンシルバニア大学において骨免疫学の研究をおこない，帰国後は，上條竜太郎教授のもとで硬組織代謝のメカニズム解明に取り組んでまいりました．このような自らの足跡を振り返ると，昭和大学に対する畏敬の念，そして，私を指導してくださった多くの先生方や研究を共にした大学院生の皆様への深い感謝の気持ちが沸きおこります．

歯科薬理学講座には６名のスタッフと大学院生１名がおりますが，目下，小口理事長ご指揮のもと，本学センター化構想の皮切りとして，医科薬理学講座および臨床薬理学講座との教育・研究面での連携強化を図り，薬理系講座の構造改革を進めているところです．これを支障なく遂行し，歯学部の良きモデルとして成功させることが重要な任務と位置づけております．また，歯科薬理学は基礎および臨床の両方に関係する学問であり，今後，基礎系から臨床系の講座まで幅広く密な交流を培いながら，教育と研究を推進してまいる所存です．

現在，研究室はセンター化に伴う工事が行われております．十分なおもてなしはできませんが，お気軽にお立ち寄りいただければ嬉しく存じます．

今後ともなお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう，何卒よろしくお願い申し上げます．

第３回歯科医学教育者のためのワークショップに参加しました

障がい者歯科学部門　船津　敬弘

１２月１２日～１５日まで富士教育研修所で行われた，文部科学省・厚生労働省・日本歯科医師会・日本歯科医学会後援の日本歯科医学教育学会主催第４回歯科医学教育者のためのワークショップに参加いたしました．本ワークショップは歯科医学教育における諸問題の解決に向けて，歯科大学においてファカルティ・ディベロップメントを企画・運営できる人材の養成を目的とし開催されたもので，全国の歯学部および歯科大学を中心として４０名の参加者を対象として行われました．厚生省および文科省の講演で始まり，カリキュラムの作成をスモールグループディスカッションを通して行いましたが，すでに本学がとり組んでいることがその内容の大部分であり，本学の教育の先見性および充実度を再確認いたしました．他にJAXA の「はやぶさ」プロジェクトリーダーであった東京大学川口淳一郎教授の仕事への取り組み方に関する講演など内容も充実していました．多くの他大学の先生方とも交流をはかることができ，とても有意義なワークショップとなりました．

平成２５年度推薦・編入学試験が実施されました

入試常任委員　山本　松男

平成２５年１１月２日（土）に，平成２６年度歯学部，薬学部，保健医療学部の推薦入学試験と歯学部の編入学試験が旗の台キャンパスで行われました．

推薦入学試験（２５名募集）の志願者数は４５名（昨年度４９名），編入学試験の志願者数は２１名（昨年度２１名）と，ほぼ昨年の志願者数となりました．

当日は天候にも恵まれ，無事終了しました．合格発表は１１月６日（水）午後３時に行われ，推薦入学試験では２６名（男１１，女１５）が，編入学試験では６名（男２，女４）が合格しました．志願者数については，一時期の歯科医志望者減少が薄れたという感想を持ちました．高校訪問をはじめ教職員の皆様のご協力に感謝をいたします．１１月２３日（土）には入学までの心構えや苦手な科目の学習などについてガイダンスを行い，入学後の大学教育に向けて準備を継続するように指導を行いました．

今後の入試日程を表に示します．１月３０日（木）の選抜Ⅰ期・センター利用Ⅰ期入学試験の東京会場は五反田のTOCです．教職員の皆様には今後ともご協力のほど，よろしくお願い申し上げます．

入試種別（募集人員）	出願期間	試験日	合格発表
センター利用Ⅰ期(約１０名)	12月24日～1月16日	セ:1月18・19日 個別:1月30日	2月6日
センター利用Ⅱ期(約３名)	2月3日～2月14日	セ:1月18・19日 個別:2月22日	2月25日
選抜Ⅰ期（５０名）	12月24日～1月23日	1月30日	2月3日
選抜Ⅱ期（約８名）	2月3日～2月14日	2月22日	2月25日

第９回学生生活指導のための教職員ガイダンスが開催されました

学生部長　上條　竜太郎

平成２３年１１月２９日，上條講堂で「学生生活指導のための教育職員ガイダンス」が開催されました．本ガイダンスは，日頃学生教育にご尽力いただいている先生方を対象として，学生教育に関する最新の話題や諸問題，参考となる事例等をご講演いただくもので，平成１７年より毎年開催され，本年度で第１０回となりました．本年度のガイダンスは宮崎　章学生部長（医学部・教授）の開会の辞，小出良平学長の挨拶に続き，田中一正教授（富士吉田教育部学生部長）より「いま求められる富士吉田での全寮制教育」，引き続き木内裕二教授（薬学部薬学教育学）より「指導担任のためのキャンパス・ハラスメントガイド」と題してお話しいただきました．いずれも日々の学生教育に直結する興味深いお話しで，非常に有意義なガイダンスとなりました．

TOEIC IP テストが実施されました

教育委員長　井上　美津子

平成２５年１２月７日（土）に歯学部の TOEIC 団体受験（IP）テストが実施されました．富士吉田では各学部の１年生全員に４月と１２月に実施しているものですが，本年度も歯学部の学生，大学院生，教員を対象に旗の台校舎で実施されました．このIPテストは一般の受験者が受ける公開テストと同じ基準で設定されており，同等のスコアを獲得できますが，個人受験より受験料が半額以下ですむというものです．

歯学部では，国際交流プログラムや６年生の選択実習で海外を希望する学生には受験を前提としています．今回は歯学部の学生４名と大学院生６名が受験しました．来年の１月上旬に結果が出る予定です．

昭和歯学会が開催されました

歯科麻酔科学部門　飯島　毅彦

本年12月7日（土）に昭和歯学会例会が開催されました．来年は昭和大学学士会に移行するため，最後の昭和歯学会例会となりました．

第1題目の特別講演は慶應義塾大学先端科学技術センター・所長，鈴木哲也教授による「抗血栓および摺動特性を有した薄膜被覆による医療デバイスの開発 」でした．現在広い分野で応用されている DLC という表面コーティング技術が紹介されました．このご講演をきっかけとして医工連携につながることが期待されました． 第2題目は千葉大学医部付属病院麻酔・疼痛緩和療科，磯野史朗教授による「閉塞型睡眠時無呼吸症，歯科医師の役割 」でした．本症候群の治療において歯科医療が大切な役割を果たすことをわかりやすく解説していただきました． 第3題目は香港大学歯部口腔診断科，後藤多津子 准教授による「香港大学歯部での教育体制－Hong Kong からみた歯学教育のグローバルスタンダード」でした．日本人として唯一国際的な香港大学の教育に携わっていらっしゃる後藤先生の活発な教育活動は大いに刺激となりました．研究紹介講演は口腔微生物学講座，桑田啓貴教授が最先端の研究と今後の抱負をご講演いただきました．いずれも質の高い講演で最後の昭和歯学会例会を締めくくりました．

第3回 IT を活用した教育センターワークショップが開催されました

歯科補綴学講座　菅沼　岳史

昨年文科省大学間連携共同教育推進事業として採択された「IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」プログラムも2年目を迎え，11月20，21日に第3回 IT を活用した教育センターワークショップが旗の台校舎にて開催されました．今回は，連携校の北海道医療大学と岩手医科大学および各大学の近隣歯科医師会から43名が参加しました．また，南カリフォルニア大学のクラーク教授とマリガン教授を招聘し，ご講演をして頂きました．クラーク教授は本学 Virtual Patient(VP)システムのオリジナル版の開発者であり，マリガン教授は米国における障害者歯科・高齢者歯科のリーダーとしてともに先進的な教育手法を導入されています．お二人のご講演は，本事業の今後の展開に大いに参考になったと思います．ワークショップのグループ作業では，今年度から各大学で実施されている e-learning を用いた教育についての改善策と来年度からの本事業に導入予定の VP システム作成に向けての準備が進められました．2時間の限られた時間でしたが，VP システム作成に必要な症例概要などが討議され，来年の3月に開催される第4回ワークショップまでに各グループにおいて完成を目指しての作業が行われます．3年目を迎える来年度に向けて，作成される VP システムが本事業の目的を達成するための有用な IT 教材となることを期待しております．

日本歯科麻酔学会デンツプライ賞を受賞しました

歯科麻酔科学部門　増田　陸雄

日本歯科麻酔学会デンツプライ賞とは，日本歯科麻酔学会総会で発表された演題のうち，臨床および基礎部門よりそれぞれ2演題を最優秀演題として表彰されるものです．このたび，私が発表した「ミダゾラムとプロポフォールの併用による静脈内鎮静法の至適管理方法に関する回帰分析」が選出され，第41回日本歯科麻酔学会総会（10月，横浜市）にて表彰されました．静脈内鎮静法の方法論は確立していません．この研究は最適な管理方法を統計学的に検討したものです．

歯科病院は全国でもトップクラスの鎮静法の症例があります．延べ1，000例の鎮静をうけた患者さんと，鎮静下に治療をおこなった先生方の満足度を調査したものです．この場をお借りしまして，アンケート調査にご協力いただいた皆様，歯科麻酔科の医局員，そしてご指導いただいた飯島教授に深く感謝いたします．この賞を励みに，さらなる「歯科治療における快適性と円滑性」の追究を目ざします．

マルチドクタープログラム合同説明会が開催されました

大学院運営委員長　佐藤裕二

12月13日に3研究科合同で，3，4，5学年在籍者対象（歯学研究科9名，医学研究科2名，薬学研究科11名）に開催されました．私の全体説明の後，各研究科に別れて説明を行いました．

このプログラムは，次世代の研究者を育成するために，学部在籍中に，科目等履修生として，大学院教育を受け，研究マインドを醸成するものです．すなわち，学生の間に大学院の勉強・研究に触れてみるものです．2年間で最高8単位を認定し，大学院修了要件単位数に算入でき，大学院の期間を1年間短縮できる場合もあります．

現在，4年生2名，5年生5名，6年生5名が本プログラムに参加しています（登録料3万円，授業料は年間5万円）．出願締め切り3月5日で，試験3月7日です．熱心な学生さんに，このプログラムのことをぜひ紹介してください．また，「D3研究入門」（2月末から2週間）という基礎教室配属科目の事前受講も推奨しました．

大学院春期Ⅰ期入試が行われました

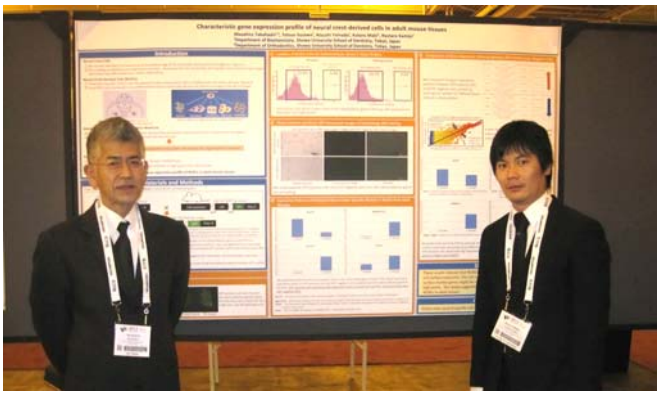
大学院運営委員長　佐藤裕二

12月7日に大学院春季Ⅰ期入試が行われました．午前が語学試験，午後が専門科目試験です．12月19日に合格発表があり，一般選抜12名（うち昭和大10名），社会人特別選抜1名の13名が合格しました．マルチドクター制度で，学生時代に8単位を取得し，卒後研修を終了予定の2名も合格しました．今回からは卒業見込み者はⅡ期入試を受験したもらうことになったので，社会人特別選抜は少なめでしたが，昨年度の14名（一般9名，社会人5名）とほぼ同数です．春季Ⅱ期入試が2月15日に行われます．願書締め切りは2月7日です．優秀な大学院志願者がさらに大勢来てくれることを願っています．

米国細胞生物学会議で発表しました

大学院4年（歯科矯正学専攻）　高橋　正皓

12月14～18日にわたり，アメリカのニューオリンズで開催されました第53回米国細胞生物学会議に口腔生化学講座の須澤先生と，歯科矯正学講座大学院生の宮本先生と共に参加させていただきました．ニューオリンズはルイジアナ州の中心都市で，ジャズ発祥の地として有名です．また，西洋の街並みを残すフレンチクオーターや，数多くのジャズバーとレストランが建ち並び夜遅くまで賑わうバーボンストリートがある，アメリカ南部を代表する観光都市でもあります．米国細胞生物学会議は，分子・細胞生物学を中心とした世界でも有数な学会の１つであり，各国の大学院生から世界的に著名な研究者までが参加する大規模な学会です．このたび宮本先生とポスター発表をさせていただきましたが，ポスター発表の総演題数は2300を超え，大変興味深い演題が数多くありました．フリーディスカッション形式のポスター発表では多くの質問をいただくことができ，研究に対する探求心と創造力の重要性を再認識することができました．このような大変貴重な機会を与えていただきました上條先生と槇先生をはじめ，ご指導，ご協力いただきました全ての先生方に深く感謝致します．



受賞

広報委員長　井上　富雄

日本口腔組織培養学会設立50周年記念学術大会ベストプレゼンテーション賞（2名）

大学院4年（歯科矯正学専攻）宮本　尚
大学院3年（歯科補綴学専攻）浦野絵里

昇任

広報委員長　井上　富雄

増田　宜子准教授（歯内治療学部門）

行事予定

広報委員長　井上　富雄

1月18日（土）19日（日）：センター入試
1月28日（火）：CBT
1月30日（木）：選抜Ⅰ期・センター利用Ⅰ期入試
2月1日（土）2日（日）：第107回歯科医師国家試験
2月15日（土）：歯学研究科Ⅱ期入試
2月16日（日）：OSCE
2月22日（土）：選抜Ⅱ期・センター利用Ⅱ期入試
2月26日（土）：CBT 追・再試

編集後記

口腔生化学講座　吉村　健太郎

編集作業が遅れ，皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます．また，年末のお忙しい中，原稿を執筆して頂いた先生方に心より感謝申し上げます．末筆ではございますが，平成26年が皆様にとって幸多い年になりますようお祈り申し上げます．